United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
浜松ユネスコ協会

# UNESCO HAMAMATSU

## ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.178
2021.7.20

発　行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長　小畠逞壯
TEL(053)463-0458
FAX(053)463-0458
編集(広報委員会)阿部行俊

## 2021年度　浜松ユネスコ協会　通常総会

**5月8日（土）於：コンコルド浜松**

昨年は中止となった総会が２年ぶりに開催されました。感染症予防対策を十分に配慮した会場で、昨年度の事業や収支決算及び本年度の事業計画や予算案等が承認されました。また、役員の選任も行われ、会長には小畠逞壯氏が再任されました。なお、懇親会は中止としました。

**【会長挨拶】**

## ～ 浜松の教育･科学･文化　パイオニアとしての誇り ～

**浜松ユネスコ協会会長　小畠逞壯 氏**

コロナウイルス感染症予防のために、「食べるな。しゃべるな。近寄るな。」が日常化しています。ワクチンがないのです。日本は世界一の医療制度の中で、ワクチンが作れない国だったのです。日本の国防意識は軍事でしょう。今回は違います。感染症なのです。本当の国防とは、感染症や災害活動ではありませんか。特に子供は悲惨です。感染症の拡大により、食事が摂れない子供たちが大勢います。この貧困を食い止めたいです。それには政治の力が必要です。

昨年は、浜松ユネスコ協会の重鎮が亡くなりました。取り分け鈴木眞一さんには40年近くお世話になりました。眞一さんがユネスコの勉強を始めたのは昭和26年です。創生期の浜松ユネスコ協会は、素晴らしい会員が大勢いました。岡本氏（初代会長）、栗原氏（元市長）、山内氏（元市議会議員）など、各分野のトップが揃っていました。この人たちの奮闘がなければ、今の浜松はないのです。なぜなら、浜松ユネスコ協会員である彼らの努力によって造られたのが図書館、市民会館、美術館、そして、最終的には科学館だからです。すなわち、浜松ユネスコ協会は、浜松の教育、科学、文化のパイオニアなのです。

第3回科学教室「微生物とホタル」

今ここにいる若い人も素晴らしいです。科学教室もその一部です。歴代の静岡大学工学部の学部長は、ユネスコ協会員でした。科学教室は結集された力の持ち主が創り出した誇りであると思います。私は最初の工学部でやった人たちの理想や理念が生きていると思っています。（要旨抜粋）

## 【来賓挨拶】

**衆議院議員　塩谷　立 氏（代理　青島　大 氏）**

本日は2021年度浜松ユネスコ協会通常総会の開催、誠におめでとうございます。心豊かな文化都市浜松の伸長は、浜松ユネスコ協会の日常の活動の賜物と感謝申し上げます。新型コロナウイルスが広がって1年、誰もが言いしれぬ不安を迎えながらも、いつか必ず乗り越えられる日がやってくるとの希望をもち過ごしております。こうした状況の中、4月に開催されたユネスコ教室では、素直な心をもつことや疑問を追究することの大切さ、さらに世界平和という大きな視点での学びの大切さが呼び掛けられたと伺っています。国民が美しく心を寄せ合い、誇りと活力ある令和の時代に弾みをつけたいと思います。（一部抜粋）

## 2021年度　浜松ユネスコ協会役員

会　　長：小畠逞壯
副 会 長：安藤隆敏、大石幹子
　　加藤泰弘、袴田正義
監　　事：伊東政好、鈴木道子
　　近藤良夫
顧　　問：岡本　肇、鈴木道子
　　山本和子、鈴木育太郎
相 談 役：飯田彰一、石岡琢磨
渉　　外：金子容子
事務局長：三輪宜弘

## 2021年度　第1回ユネスコ科学教室

**4月29日（木）於：地域情報センター**

昨年度はコロナウイルス感染拡大に伴い、開催を中止しました。小学生を対象として33回目（35年目）となる本年度は、感染予防を考え、定員を例年の約半数としました。169名の応募があり、抽選により60名でスタートしました。

【課長挨拶】

## ～ 本物と出会い　科学する心を育ててほしい ～

浜松市創造都市･文化振興課　生涯学習担当課長　久米章史 氏

ユネスコ科学教室に参加する皆さんに期待することがあります。皆さんの心に科学する心を育ててほしい。そのためには、本物と出会うことが大切だと思います。本物と出会うことで心が揺れ動かされます。自然を観察することで自然を身近に感じることができます。不思議に思ったことを調べたり考えたりするようになります。自然を愛し、人を愛する心が育っていきます。それが、科学する心につながると思います。

このユネスコ科学教室では、昆虫・植物・岩石・天体など科学に関する様々な体験活動を用意してあります。今日から始まる教室に参加したくさんの本物と出会ってください。みなさんの心に科学する心が育っていくことを願っています。（要旨抜粋）

【副会長挨拶】

## 五感を研ぎ澄まして、身に付ける4つ

浜松ユネスコ協会副会長　安藤隆敏 氏

ユネスコは、国際連合の「教育・科学・文化」の専門機関の略称です。世界で193カ国が加盟している組織です。なぜ、設立されたのかが大事です。1945年に終わった第二次世界大戦で8000万～8500万人の方が犠牲になりました。当時の世界の人口から考えると約2.5％の人たちです。これだけ多くの犠牲者がでたのは、人を殺す道具として科学を間違った方向に発展させたからに他ありません。この反省から、教育・科学・文化の発展を通して、平和の社会を実現しようとするのがユネスコ運動です。

文部科学省の中にユネスコ国内委員会　全国各地には270の民間ユネスコ組織があります。浜松ユネスコ協会は、今から73年前1948年4月に民間ユネスコとして全国5番目に設立されました。浜松市の支援を受けて、浜松ユネスコ協会が特に力を入れてきたのが科学教室です。1986年に浜松科学館が作られました。当時の市長、市の社会教育部長、教育委員の方々が浜松のユネスコ活動をリードしていました。そのため、子供たちの科学する心を育てようと小学生の科学教室が始まったという経緯があります。

科学教室では修了式で修了証書を渡します。そこには、この科学教室を通して身に付けてもらいたいことを4つの言葉で表してあります。

内科･消化器科
西 脇 医 院　院長　西脇雅子
中区和合町176-58　☎〈053〉412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。
伝統の中高一貫教育／地域唯一の女子教育／新しい課題探究型学習
入学相談は随時受け付けております。
パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気を是非御覧ください。
静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校
TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

## ☆素直な心の持ち主になること

周りの人・ことに対して５つの感覚五感を研ぎ澄ましてください。そして、ユネスコの会員であることの自覚をもって、素直な心で行動してください。

2019年度修了式
会長より一人一人に渡される修了証書

## ☆疑問を追究する人になること

身の回りには不思議なことが溢れています。本やゲームの画面とは全く違います。なぜだろうと疑問をもって調べてみることが科学です。科学教室で学んだことを、是非、夏休みの理科自由研究に生かしてもらいたいと思います。そして、浜松ユネスコ協会が募集する山本自然科学賞に応募してくれるとうれしいです。

## ☆地球の自然を守る人になること

人間が表面的な便利さを追い求め過ぎて地球上にはたくさんの悲鳴があがっています。一度壊された自然が元に戻るのは何十年、何百年、いやもっとかかります。このことは、2011年の東日本大震災に伴って起きた原子力発電所の事故を見れば明らかです。地球に優しいということは、巡り巡って人間に優しいということになります。

## ☆世界の人々の平和を願う人になること

世界では食べ物がないための飢え、薬がないための病気、そして戦争のために多くの人が死んでしまっています。また、言葉の読み書きができないため、貧しい生活を余儀なくされている多くの人がいます。一見、平和な日本では想像がしにくいかもしれません。しかし、開発途上国と言われている国々では中学校に通えるのは子供たちのうちわずか50％程です。世界の平和という大きな視点をもって一人ひとりが本物の学力を伸ばし、日々の生活を送れるようになってください。科学の究極の目的はここにあります。

以上４つのことをしっかり心に留めてユネスコ科学教室をスタートしたいと思います。

ユネスコ科学教室スタッフ紹介

## 第1回ユネスコ科学教室　オリエンテーション
# ユネスコがめざす科学

学校委員会委員長　山内登志弘 氏

１年間の科学教室の活動をスタートするにあたり、オリエンテーションを行いました。初めに「ユネスコとは何か」、「ユネスコの目的は何か」という話を通して、ユネスコで科学教室を行うことの意味を子供たちに伝えました。ユネスコの思想の原点にあるものは「世界の人々の平和と幸せ」です。そのために、「自分に何ができるか」「何をすべきか」を考えられる人になってほしいと思います。科学を通して自分を磨き、高め、人々のためにできることを実践していく、そんな人になってほしいと願っています。

**「浜松ユネスコ科学教室のあゆみ」**

1945年　終戦
1948年　静岡県西部ユネスコ協力会創立
1953年　ユネスコこども学校　開講
1955年(S30)ユネスコ自然科学講座
1958～1982年(S33−S58)ユネスコ学校科学教室
　　(対象:中学生)静岡大学工学部を中心
1987年(S62)～現在　ユネスコ科学教室
　　(対象:小学生5･6年)

1973年度　天気図の書き方
＊　受講生多数のため市民会館２階にて

1958年に開講したユネスコ学校科学教室は、静岡大学工学部を中心に実験やフィールドワークが行われていました。この教室運営の中心となっていたのが、当時、助教授であった故山口文太郎氏（静岡大学名誉教授）です。山口氏は、1966年の機関誌に下記のような文章を残しています。

# ～ ユネスコと科学　科学教室実験室のために ～

山口文太郎（常任理事）

人間の争いのもとをなくすことが、この世を楽園にする第一歩です。世界中の人間尊重と相互理解を確保しましょう。（教育文化の仕事）そうした皆で何が本当に大切かを考えて、必要な自然の変革（科学の仕事）を協力してやりましょう。神の力に達した偉大な力をこのようにして使うことは何んと素晴らしいことか、それこそ私達の科学の勉強目的でなければなりません。（一部抜粋）

NO.29 1966.6.25　UNESCO　HAMAMATSU

**【講話内容】**

❶国際連合とその目的　❷ユネスコとその目的
❸ユネスコの前身と誕生　❹浜松ユネスコ誕生とこれまでの歩み
❺浜松ユネスコ科学教室のこれまでの歩み　❻山口文太郎先生の言葉
❼現在の科学教室の様子　年間活動計画や各活動の様子
❽修了証書とそこある言葉に込めた思い

## 第2回ユネスコ科学教室

# 「チョウと植物・チョウの不思議」

## ～ チョウの奥深い神秘を感じる ～

**5月15日（土）於：浜松科学館**

科学館のホールと講座室には、卵・幼虫・成虫と様々なステージの多くの種類のチョウが準備されました。

前半、子供たちは、チョウの生態についての講義を聞きました。浜松市の天然記念物がギフチョウであることや日本の国蝶がオオムラサキであることから始まりました。産卵の仕方はチョウの種類によって異なること、蛹の付き方により成虫の脚の数に変化が起きるという話題に興味津々でした。完全変態する蛹の中の不思議を国立がんセンターの先生が研究していることも初めて知りました。さらに、エノキを食草とする在来種のオオムラサキ、ゴマダラチョウ、テングチョウに対して、最近、問題になっている外来種のアカボシゴマダラが、今後どんな影響を与えるのかという話題も紹介されました。

後半は、チョウと植物についての実物観察や成虫の吸蜜体験、翅の鱗粉を顕微鏡で観察することなどを行いました。子供たちは、モンシロチョウのようにイモムシ型の幼虫に限らず、オオムラサキの頭に角、背中に棘がある幼虫、ジャコウアゲハの黄色の警告色の蛹など、進化の過程でそれぞれに変化しているものがあることに気付きました。また、ブラックライトをモンシロチョウの翅に当てると、雌雄の区別がつくことに驚いていました。子供たちは、チョウと植物の密接な関係やチョウの不思議について深く学ぶことができました。（鳥井みのり）

第3回ユネスコ科学教室

# 「微生物とホタル」
## ～ 小さな生物の存在を意識して　大切に ～

6月19日（土）於：浜松科学館

一人一台の顕微鏡を使用して活動を行いました。一人一人が顕微鏡を操作して、目に見えないくらい小さいけれど細かく精密な体のつくり、動き回る力強さをもっている微生物の様子や動きを観察しました。自分の力で観察できたという体験の感動も大きかったようです。

子供たちは、「うわぁ。ヒドラって初めて聞いた名前だったけど、タンポポの綿毛みたい。」「庭の池の水って、実はこんなに生き物がいるんだ。」「ミカヅキモは、本当にお月様が空に浮かんでいるみたいだ。見付けられてうれしい。」など、口々に感動を声に出していました。正しい道具の使い方も身に付けることができました。キラキラした目で顕微鏡を覗く子供たちの様子がうれしかったです。「今まで以上に身の周りに目を向け、たとえ小さくて見えなくても、そこに生き物の存在を感じて大切にする。」そのような目を養うことができたと感じました。

ホタルの観察では、暗室でゲンジホタルの発光の様子を観察しました。オスとメスの発光器の違いや点滅速度についても学びました。また、幼虫の発光も観察しました。幼虫の発光に驚いた様子でしたが、ホタルの優しいイメージと裏腹に幼虫の獰猛さにも興味を深めていました。

いろいろな分野で微生物の研究が世間に役立つようになっています。将来、そのような世界で活躍するような人がもしかしたらいるかもしれません。そんな人たちにとって、今回の科学教室が何かのきっかけとなったらうれしいと思います。

ホタルは気候に左右されるため安定した確保は難しいです。それなのに、毎年生きた個体を見せることができているのは、スタッフの努力のたまものだと思います。多くの生き物や道具が必要な今回の科学教室は、準備段階でも強いチームワークを感じました。（松永千広）

印刷のエキスパート
株式会社開明堂
TEL〈053〉471-6231(代)　FAX 473-0778

遠州鉄道グループ
ホテルコンコルド浜松

## 第1回初夏の親子公園探検隊
# 待ちわびた公園探検隊再開！
**6月12日（土）於：佐鳴湖公園**

今年はコロナ感染予防のため、定員を60名にして募集を行い、21家族58名が参加しました。昨年行われなかったので、参加者から再開を心待ちにしていたという声も聞かれました。

参加者たちは、４グループに分かれて観察を行いました。講師が持ち寄った「オオムラサキの成虫」「ナガサキアゲハの蛹」「ジャコウアゲハやアオスジアゲハの幼虫や蛹」「クツワムシ、ショウリョウバッタ」などに興味津々で、講師の話を真剣に聞き入っていました。

今回は、静岡県で一番低い山、標高32mの根川山やひょうたん池周辺もコースに組み込みました。距離も少し長くて険しい道のりでしたが、疲れたという子供に、親子でヤブニッケイのスッとする葉の匂いを嗅いで、元気づけている微笑ましい姿が見られました。

探検する中で、ナナフシモドキ、カラスアゲハ、コフキゾウムシ、クロイトトンボ等、様々な昆虫を観察したり、タイサンボクやクチナシの花の匂いをかいだりして、五感をフルに使って公園探検を楽しむことができました。終了後には、参加者の充実した笑顔が広がり、半数近い家族が、次回の参加を申し込んでいきました。この活動を再開できた喜びを、参加者とともに味わうことができました。（袴田正義）

あなたも一緒に
**会員募集**
問い合わせ・申し込み
事務局　三　輪　宜　弘
■ 053-425-8643

## 会員動向　会員数（2021.7.11現在）

| 賛助 | 法人 | 維持 | 理事 |
|---|---|---|---|
| 29 | 1 | 4 | 40 |
| 普通 | 学生 | 合　計 | |
| 39 | 0 | 113 | |

※再生紙を使用しています。